科目ナンバリング	U-LAS20 10001 SB48						
授業科目名 <英訳>	英語リーディング ER33 1S8 English Reading			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 西本　希呼		
群	外国語科目群	分野(分類)			使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	月1	配当学年	1回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

大学生活と学術英語に慣れはじめた後期の授業では、科学記事やニュースを日英両方で日常的にたしなむ習慣を身につけます。多くの情報資料を英語で読み解き、議論するために必要な実践的な学術英語の習得と訓練を行います。スティーブン・ストロガッツの『SNYC　なぜ自然はシンクロしたがるのか』を切り口に、(1)一般向けにわかりやすく書かれた非線形科学の最先端をいく研究を英語で楽しく読み解くこと (2)この本を通じて、研究者がどのように日常生活から研究テーマを見つけ、多分野で多国籍の人と議論し試行錯誤しながら楽しく研究を深化させていくのか観察することを目的とします。

[到達目標]

この授業では、(1)英語で書かれた学術記事の購読を通じて、学術英語を使いこなす技術を習得すること、(2)日常生活の小さな疑問や出来事を、異なる価値観や様々な学術領域から考察する能力を培うこと、（3）日本語と英語の両方で自分の伝えたいことを他者にわかりやすく伝える能力（プレゼンテーション能力）を養うことの３点を主な目標とします。授業を通じて、学術の器と人間の器の両面を広くするために切磋琢磨していきます。

[授業計画と内容]

授業では教科書として、Steven Strogatz (著)のSync: The Emerging Science of Spontaneous Orderを読んで皆で議論していきます。高度な内容ですが、とても読みやすい英語で書かれています。

この書籍を要約した著者の動画資料や、著者が提供しているオンデマンド配信の講義動画、
この著者の弟子の研究など、後期は、ただ英語を読むだけではなく、科学の現場に触れ、見る、聞く、喋るの４技能を駆使して、月曜１限目の脳を覚まします。

和書の簡単に手に入る、授業では、読んで英語を訳すというだけの授業は行いません。
（音声資料もダウンロード購入可能です。著者の動画資料は無料で多く閲覧できます）
(1) Introduction授業オリエンテーション、大学で学ぶ英語とは、この授業で使う教科書について、なぜ研究者は研究するのか、科学は何のためにあるのか
(2) Chapter 1 Fireflies and the Inevitability of Sync「同期現象とは？」、学術英語記事の特徴、序論や導入部で使われる学術英語
(3) Chapter 続き「身近な同期現象」、学術英語でよく使う接続詞
(4) Chapter 3 Sleep and the Daily Struggle for Sync「時間の矢」、「概日リズム」、「周期」、「なぜ月曜日の朝は眠いのか」
(5) Chapter 3 Sleep and the Daily Struggle for Sync「睡眠を科学する」
(6) Chapter 7 Synchronized Chaos「カオスは同期する」
(7) Chapter 7 Synchronized Chaos,「混沌と秩序」

英語リーディング ER33(2)へ続く↓↓↓

(8) Chapter 5 Chapter 7 Synchronized Chaos,「カオス理論」
(9) Chapter 9 Small-World Networks「複雑な世界、単純な法則」
(10) Chapter 9 Small-World Networks「複雑な世界、単純な法則」
(11) Chapter 9 Small-World Networks　続き「スモールネットワーク」
(12) Chapter 10 The Human Side of Sync
(13) Chapter 10 The Human Side of Sync、Epilogue
(14)フィードバック
※後期は、睡眠と同期、ネットワーク科学、カオス理論、偶然の科学を中心に授業で取り上げます。授業で取り上げない教科書の内容は、好きな箇所を選んで、授業内に簡単な配布資料（日本語）つきで英語でプレゼンテーションをしてもらいます。

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

5回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

授業中の自由で積極的な発言と、自ら主体的に調べて学ぶ姿勢を評価します。学術英語技術を習得する授業なので、必要に応じて、より適切な英語の発音やアクセント、イントネーション、表現に授業内では誘導していきますが、成績評価では、英語の発音の正確さや流暢な英語力だけではなく、むしろ予習、復習そして積極性や主体性を重視します。
＊月に１～２回内容チェックテスト（単語テスト、専門用語の英語での定義、英語の聞き取り（ディクテーション）テスト）
＊授業中に３～５分間の英語でのプレゼンテーション　教科書の内容の要約もしくは参考文献に挙げている書籍から好きなトピックを選んでプレゼンテーション

[教科書]

Steven Strogatz 『The Emerging Science of Spontaneous Order, Penguin Press Science.』（SYNC,2004）ISBN:9780141007632

[参考書等]

（参考書）
森 毅 『線型代数―生態と意味』（日本評論社，1980）ISBN:104535781117
蔵本 由紀 『非線形科学 同期する世界』（集英社，2014）ISBN:104087207374
ダンカンワッツ 『偶然の科学』（2014）ISBN:104150504008
マーク・プギャナン 『複雑な世界、単純な法則』ISBN:104794213859
ダンカンワッツ 『スモールワールドネットワーク』（2016）ISBN:104480097376
池内了 『科学の限界』（ちくま新書,2012）

（関連ＵＲＬ）

https://www.ted.com/talks/steven_strogatz_the_science_of_sync?language=ja(驚くべきシンクロ現象)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の予習として、細かく英語の単語を調べて、逐語訳をするのではなく、章単位でまとめて読み、必要な箇所は辞書で調べ、各章で何を主張しているか、要点をまとめて内容を理解してきてください。どんな分野、どんな視点でも良いので、自分で好きな参考資料を探して目を通してきてください。（思いつかない場合は参考図書から選びその一部を読んでくるだけでもOK）授業では双方向コミュニケーションを重視していますので、積極的に発言しましょう。
●予習は原則ですが、予習ができなかった週でも、技能の授業は出席して得るものがあります。前

英語リーディング ER33(3)へ続く↓↓↓

週前夜体調不良等で予習ができなかった日は、授業時間に集中して積極参加し、知的な刺激を得て帰るようにしましょう。
●「英語が苦手」「英語の発音は得意ではない」「英語はあまり喋れない」「リスニングは苦手」と思っていても、問題ありません。学術英語は訓練すれば誰でも身につけることのできる技術です。

[その他（オフィスアワー等）]

大学生活、英語学習、第２言語習得や留学、その他個別に配慮してほしい点など相談したい案件があれば、毎回配布する出席コメントシートに記入してください。